A classroom scene where students are engaged in a hands-on activity. They are seated at tables, some working on lacquerware projects. The room has a green bulletin board with various posters and notices. The lighting is bright, and the atmosphere appears to be one of focused learning and collaboration.

# 繋(つなぐ) ～書との融合で木曾漆器を未来へ～

チーム「書」どう？

# 1. 事前準備

## 【木皿に揮毫】

- ①自身が考えた文字を木皿に揮毫する前に半紙で練習する。
- ②文字を木皿に揮毫する。

## ※注意点

- ・木皿に手の脂が付着しないように木皿を触るときは手袋を着用する。
- ・木皿に文字を揮毫する際は、木の木目が横になるように注意する。
- ・漆を塗った際に文字が滲まないようにしっかり乾燥させる。





# ○感想

・木皿が完成した状態を想像しながら、どのような文字をどのように揮毫するか考えていくのが楽しかった。

・木皿は普段用いている紙と書き心地が違うため、墨をのせても多くの墨が皿自体に吸い込まれてしまうところが難しいと感じた。

・書き直すことができないため揮毫する際は非常に緊張したが、何度も練習してから揮毫することができたので、納得のいく文字を書くことができて良かった。



## 2. 摺り漆について（工程）

### 【木皿の摺り漆】

①事前に揮毫した6寸皿の表面から、絵の具用筆を使って木漆をまんべんなく塗っていく。  
そのあと、浮いてしまった木漆を紙でふき取る。

②ふき取った紙でお皿を持ちながら裏面も同じように木漆を塗った後、浮いた木漆を紙でふき取る。

※お皿の裏表の側面はカーブしているので木漆の塗り残しがないように注意する。また、回数を重ねるごとに塗り残しに気付かなくなるので注意する。

※摺り漆を重ねるほど、作品のツヤが増す。摺り漆を重ねる際には、その前に塗った生漆が完全に乾燥してから行う。



# 【豆皿】

①既に摺り漆が施されている豆皿にもう一度摺り漆を重ねる。

※一度摺り漆が施されたものは、初回に塗るよりも木に漆が吸収されにくいので、塗る漆の量に注意する。

※また、二度目以降に摺り漆を施す際は、塗り残しに気が付かないこともあるので慎重に丁寧に塗ることを意識する。

②（次回以降）

複写用紙を用いて豆皿にデザインを施し、より鮮明に見えるよう銀粉をまく。

顔料を加えて色をつけた漆（**色漆**）を使用して、デザインした下地を彩っていく。





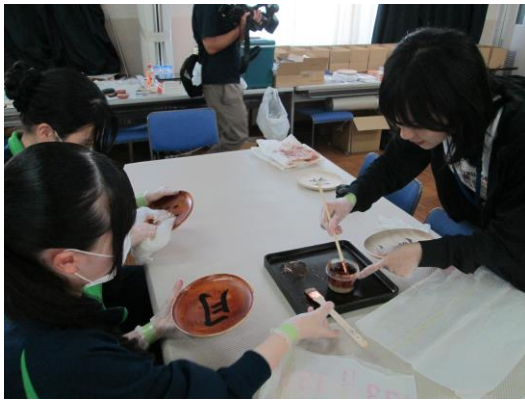
# ○感想

- ・ 去年は和紙の上から摺り漆をしたものから、木皿に直接摺り漆をする工程に変わり、漆のツヤ感がより増してきれいに出たように感じた。
- ・ 人によって摺り漆をした後の木皿の色が違いが出て面白かった。
- ・ 去年に摺り漆を体験したこともあり、二回目は手際よくスピードを重視しながら漆を塗ることができた。漆を塗るスピードや量のコツが何となく掴めたような気がして嬉しかった。
- ・ 豆皿は既に摺り漆が施してあることで、色が黒くなっていて、木地が見えないので漆のムラができないようにより集中し、注意深く塗ることが難しく感じた。



### 3、高校生と共に学ぶ

- 高校生と大学生がグループとなり、摺り漆の作業を行いました。



去年、自分たちが摺り漆を行った経験を踏まえ、高校生に漆の塗り方をアドバイスしたり…

作業をする中で分からない部分・不安な部分を、一緒に手塚さんから説明を受けたり…



互いの作品を見合いながら、摺り漆による色の濃さの違い等の個人差に気が付いたり…



# 3、高校生と共に学ぶ

○作業前→漆は、工房見学で初めて名前を聞いたし、よくわからない…

## 【高校生の皆さんの感想】

- ・初めての経験だったが、やってみたら楽しくて手が止まらなくなった。
- ・工房に売られていた漆作品のすごさが分かった。
- ・漆は非常に貴重なものなのに、漆作品を作る体験ができてよかった。
- ・漆の塗り加減（塗る速さ、濃さ、量）が難しかった。
- ・作品によって、漆を拭きあげた時の色が違った点が、面白くてきれいだった。
- ・2回目以降の摺り漆は、塗り残しが分かりづらいので気を付けて塗りたい。
- ・漆を塗る量を失敗してしまったが、手塚さんが教えてくれたおかげで次に生かした。
- ・漆は伸びないし塗りづらいのに、塗るスピードが大切で大変だった。

など…たくさんの感想をいただきました



# 3、高校生と共に学ぶ

## 【大学生の感想】

- ・作業の中で、高校生が不安に感じている工程に対して、「ここいいね」「カーブになっているところをしっかり塗ってね」など、昨年の経験を生かしたアドバイスができて良かった。
- ・高校生と一緒に活動し、昨年度からの学びをさらに自分の中で深めることができた。
- ・漆の良さや作品製作に関する技術の難しさを知ったことで、高校生が漆器を身近に感じているように見えて嬉しかった。
- ・作業を行う中で、「摺り漆をすると、1人1人こんなに色違うんだ。」「均等に漆を伸ばすと、色ムラが出ないね。」等、高校生自らが気づきを得ていた様子が見られてよかった。
- ・自分の作品だけでなく、互いの作品製作の過程も見ることができ、今後の作品制作に生かせそうな点を見つけることができた。

# 3、高校生と共に学ぶ

5000年以前からある  
漆は昔から日本で使われている  
漆は接着剤にもつかわれていた  
赤の漆は水銀から取っている

## 概要

漆の臭いツーンとする匂いがわかった  
漆を塗ったらすぐにふかないと乾いてしまうので塗ったら早く拭き取る  
漆を塗るときにはお多く漆をつけずに薄く広げる感じで塗っていく  
漆は時間が立つと鉄が酸化してカラメルみたいな色に変化していく

考えたこと

講義の手塚さんのお話を聞いたのまとめ

- 漆は英語でjapanと読む
- 漆は昔から使われている
- 生漆は20~30%の水分がある
- 約付け塗装を漆でくっつける
  - 熱で熱しても漆は取れない
- 南部鉄器は元々漆で作られていた
- 漆はがないと乾かない

手塚さんの話

- 漆は、5000年以上前の縄文時代から使われている
- 漆は接着剤にも使われていた
- 鉄と反応して黒漆になる
- 漆は木に塗られることが基本
- 仏像にも使われている
- ガラスに漆をそのまま塗ると剥がれてしまうから125度で焼き付けてから漆を塗る

感想とか

- 木の種類によって皿に出る模様が違う。
- 木の木目にそって漆を塗るとうまくぬれる。
- サラダ油とかで漆は硬化しない
- 漆はツヤが出る
- 香りが臭い
- 漆に土を混ぜると黒くなる
- 漆には防水効果や、防御力アップ効果がある

疑問

- なんで木の種類によって色が違うのか
- なんで漆には防水効果とかあるのか

- 漆は多く付けるのではなく少なく伸ばしたり染み込ませる
- 漆は塗り込んだだけ艶がでて綺麗な仕上がりになる
- 漆に土を混ぜると土には鉄分が入っているので黒くなる
- 木曽の木は上質なのであらゆる塗り方に対応している

疑問

なぜ温度や湿度が高いとすぐ乾いてしまうのか

木曽漆器は昔からある伝統的なもので手塚さんは本当に木曽漆器を守りたい、伝えていきたいという想いが伝わってきました。うるしは粘性が高いから液体で薄めると言っていたけど何で粘性が高いのかなと思いました。

次回の目標

漢字『夢』

どのように書きたいか  
行書な感じに書きたい

表現したいか  
これから生きていく中で色々なことがあるけど自分の夢に向かって頑張りたい感じを表現したい  
参考にする古典



次回の目標

漢字『彩』

どのように書きたいか  
バランスを崩しすぎないように書く  
表現したいか  
払いを意識してできるだけ綺麗に書く  
参考にする古典

## 4、今後の展望

### ○第2回講座

11月7日 Zoomでのオンライン講座

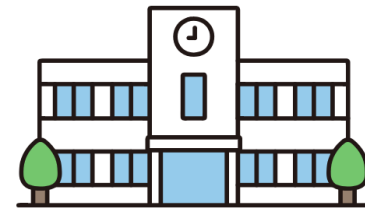
第1回講座で行った木皿の作品に2度目の摺り漆、  
豆皿作品制作



### ○第3回講座

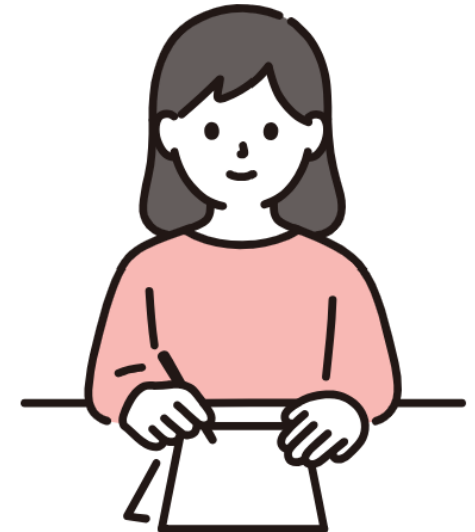
12月5日 高遠高校での講座

3度目の摺り漆、仕上げ、まとめ



### ○学生書道展

2月中旬を予定 ぜひお越しく下さい！







ご清聴  
ありがとう  
ございました